

平成 26 年 6 月 20 日

各 位

富山県立大学生物工学研究センター所長
生物工学科教授 伊藤 伸哉

ERATO 浅野プロジェクト講演会・生物工学研究センターセミナーの開催について

下記の通り ERATO 浅野プロジェクト講演会・生物工学研究センターセミナーを開催致しますので、皆様多数ご来聴頂きます様お願い申し上げます。

記

日時： 平成 26 年 7 月 25 日（金） 14:40～16:10
場所： 富山県立大学生物工学研究センター 1 階 K-136 講義室
講師： 三原 康博（みはら やすひろ）博士

《味の素株式会社 バイオ・ファイン研究所 主任研究員》

演題： 「ヌクレオシドリン酸化酵素の開発と実用化」

要旨： 5'-イノシン酸ナトリウムは鰹節のうま味成分、5'-グアニル酸ナトリウムは干し椎茸のうま味成分として知られている有用なヌクレオチドである。これら核酸系うま味化合物は昆布のうま味成分グルタミン酸ナトリウムとの相乗効果を示し、その製法開発は重要な課題であった。我々は、ヌクレオシドを微生物の発酵で生産し、これを酵素的にリン酸化するヌクレオチドの新製法開発を目指し、1993 年より浅野先生のご指導を仰ぎながら、産学協同体制にて酵素の開発を開始した。そして、多くの研究者、技術者の鋭意検討を経て 2003 年より新製法による核酸系うま味調味料の生産が開始された。本開発は分子進化学とタンパク質工学の技術が産業用酵素に適用された早期の例となっている。

核酸系うま味調味料市場は現在も順調に伸長し、現在では 37,000T に達している。一方で競争も激化しているが、味の素社は新製法の改良を続けながら、競争力を維持し、現在 30%のシェアを維持している。また、酵素改変技術は現在も新しい手法・戦略が開発されつつ、汎用的に利用される技術へと発展してきている。本講演では、研究計画の変遷、開発時の試行錯誤、実用化検討の取り組みといったトピックスを含めて開発の経緯を紹介したい。

(連絡先) 〒939-0398 富山県射水市黒河 5180
富山県立大学工学部生物工学科酵素化学講座
生物工学研究センター
浅野 泰久
ERATO 浅野酵素活性分子プロジェクト事務室
担当：松田元規
電話：0766-88-2280 FAX：0766-88-2422
E-mail:m-matsuda@pu-toyama.ac.jp